

日本企業で活躍する
JET OB-OG

日本のビジネス最前線で働く JETOG

株式会社 電通 第16営業局 アカウントソリューションオフィス ソリューション2部 アイシャ・レバイン

私は、CIRとして2002年からの3年間、京都府亀岡市役所で勤務し、姉妹都市関係のサポート業務や、亀岡市民の国際理解を深めるための草の根レベルのPR活動やイベントの企画・運営に従事しました。その経験を活かし、現在、私は株式会社電通の営業局に所属しており、日本国内で事業展開している外資系企業のトータルコミュニケーションサポートを行っています。具体的には、取引先の企業のニーズに応じて、社内専門家など数多くの情報源を活用し、取引先企業の課題に対し最大のソリューションを提案しています。

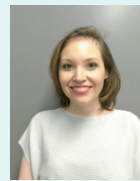
30周年を迎えるJETプログラムは、日本にとって宝物だと思います。日本に興味のある外国人が新たな視野を持ち、母国の文化を日本の方に紹介できるとても良い機会であると同時に、日本の素晴らしいところを多く学び、世界



にPRすることもできます。ただ、JETプログラム経験者として、あえて改善点を述べるとすれば、もっと多様な現場経験をJET参加者達に積ませてあげることができればと思います。そうした経験を通して、JET参加者がよりやりがいを持ち、仕事への意欲の向上やJETプログラム終了後の就職に役に立つのではないかと考えています。

今後は、日本にまだ存在しないビジネスモデルを導入することによって、日本人のまだ知らない外国のブランドやサービスを紹介し、日本を盛り上げていきたいと思っています。

プロフィール



アイシャ・レバイン

米国出身。2002年に大学を卒業後、CIRとして京都府亀岡市に配属になる。2005年、株式会社電通に入社。現在は営業局に所属し、日本国内で事業展開している外資系企業を担当。また、外国人社員のスーパーバイザーとしても活躍している。

人事担当者から一言

株式会社 電通 人事局 採用部 菅 弘志

JETプログラムの国際交流員（CIR）には、高度な日本語能力と異文化コミュニケーション力を兼ね備えた方が多いため、グローバル化が進む日本市場において高い将来性を感じています。



当社としては、コミュニケーション・ビジネスに対する熱意、高度な対人コミュニケーション能力、そして新しいサービスや事業について常にアンテナを張るような好奇心などを持ち合わせている人材を求めています。

CIRを経て当社に仲間入りしたアイシャは、これらの条件を満たしているうえ、今や多くの日本人から失われた義理人情、日本文化に対する深い理解を有しています。CIRならではのバランス感覚やバイリンガル能力をいかに発揮し、今や電通では欠かすことのできない存在となっています。これからもJETプログラムには、アイシャのような優秀な人材を数多く輩出してくださることを強く期待しています。